



ひょうはどうして降るの

かみなり雲の中でできる

ひょうは、かみなり雲（積乱雲）の中でできます。

かみなり雲の中は、下から上に向かって強い風がふいています。これを、上昇気流とい
います。上昇気流で上昇した空気は、上空で急に冷やされて、水や氷のつぶになり
ます。さらに上昇すると、氷のつぶのまわりに、水のつぶがついてこおっていき、それ
が、だんだん大きくなって重くなります。

氷のつぶが、さらに大きくなる

だんだん大きくなった氷のつぶは、やがて落ちていきます。ところが、落ちてくるとち
ゅうで、下からふき上げてくる強い風にぶつかります。そうすると、氷のつぶは、また上昇
していきます。初めは小さかった氷のつぶが、何回も上がったり、下がったりするのをくり
返すことによって、氷のつぶが、さらに大きくなっていきます。

大きくなった氷のつぶが、地上に降ってきたものがひょうです。上空では大きかったひ
ょうも、落ちてくるとちゅうの、空気の温度が高いときには、雨になってしまうこともあり
ます。

ひょうの大きさは、直径5～50ミリメートルぐらいのものが多いたのですが、アメリカ
のネブラスカという所では、直径が13.8センチメートル、重さが680グラムもある
ひょうが降ったそうです。（監修・村山 貢司）

